

平成29年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

大阪市立三先幼稚園

平成30年3月

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

- 本園の子どもたちは広範囲から通園してくることもあり、育ってきた環境が様々である。そのような課題をふまえ、子どもたちの実態を的確に捉え、発達段階や時期に応じた保育の充実に努めていかなければならないと考える。
- 子ども達が安心、安全な園生活を送るためには、環境の整備だけでなく、安全に過ごそうとする意識を育てる指導が必要である。また、危険を回避するためには、しっかり動く体作りも大切であると考える。
- 近くに大きな幹線道路や工場が多い地域があり、大型車両も多く通る。登降園中の危険も多い。そのため、交通の安全の意識を高める必要がある。
- 落ち着いて話を聞き、ルールを守って行動するようになるために、話を聞くだけの援助ではなく視覚支援を生かした保育の工夫が必要である。
- 区に1つの公立幼稚園であることから、地域の幼児教育のセンター的な役割を果たしていく必要がある。本園の保護者だけでなく地域の方や未就園児の保護者へ、本園の教育内容を広く発信していくよう努めなければならぬと考える。

### 中期目標

#### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 保護者アンケート調査で、「子どもは安全に過ごすための生活習慣を身につけている」の項目について、肯定的な回答率を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で、「子どもは周りの環境を大切にできる心が育ってきている」の項目について、肯定的な回答率を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で、「幼稚園は活動内容や教育方針を保護者に分かりやすく伝えている」の項目について、肯定的な回答率を90%以上にする。

#### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 保護者アンケート調査で、「幼稚園は遊びを中心に実体験を大切にされた教育活動に取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答率を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で、「幼稚園は健康的な生活習慣が身につくような指導に努めている」の項目について、肯定的な回答率を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で、「幼稚園は幼児理解を深めたり教材研究をしたりし、指導力向上に努めている」の項目について、肯定的な回答率を90%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 保護者アンケート調査で、「子どもは安全に過ごすための生活習慣を身につけている」の項目について、肯定的な回答率を70%以上にする。
- ② 保護者アンケート調査で、「子どもは周りの環境を大切にする心が育ってきている」の項目について、肯定的な回答率を70%以上にする。
- ③ 保護者アンケート調査で、「幼稚園は活動内容や教育方針を保護者に分かりやすく伝えている」の項目について、肯定的な回答率を70%以上にする。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 保護者アンケート調査で、「幼稚園は遊びを中心に実体験を大切にした教育活動に取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答率を70%以上にする。
- ② 保護者アンケート調査で、「幼稚園は健康的な生活習慣が身につくような指導に努めている」の項目について、肯定的な回答率を70%以上にする。
- ③ 保護者アンケート調査で、「幼稚園は幼児理解を深めたり教材研究をしたりし、指導力向上に努めている」の項目について、肯定的な回答率を70%以上にする。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

年度末の保護者アンケートでは、①の項目で96%、②の項目で97%、③の項目で100%の肯定的な回答となり、目標を大きく上回り、達成することができた。各項目で立てた指標を、年間を通して計画的に取り組んでいくように努め、学期ごと、また前期・後期と取り組みを振り返る中でより良い方法を検討して取り組むようにした。その結果、取組内容を充実させることができ、子どもの育ちにつなげることができた。また、保護者への啓発にも力を入れ、新しい取り組みを行っていくことで、成果や次年度への課題も明確になった。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

年度末の保護者アンケートでは、①の項目で99%、②の項目で100%、③の項目で98%の肯定的な回答となり、目標を大きく上回り、達成することができた。

特に今年度は、日々の遊びを見直し、好きな遊びの中で季節や発達段階に応じた遊びの展開や環境構成の工夫に力を入れた。日々の保育の中での子どもの実態や、気付いたことを常に教職員で話し合える環境作りに努めた。意見を出し合うことで、保育の内容の充実や、環境の再構成を行っていくことができ、子どもが主体的に遊ぶ姿につなげることができたと実感できた。

また、園として就学前教育カリキュラムのパイロット園やがんばる先生支援を受けることで、教職員が園の教育目標に基づいた明確な方向性に共通理解をもちながら進めることができた。成果として、子どもの自己肯定感の高まり、教職員の資質が向上した。

今年度の取り組みを通して、改めて、遊びを中心に実体験を大切にした教育活動の重要性を再確認するとともに、教師の教育的意図をもった働きかけの大切さを実感することができた。また、公立幼稚園として、地域に見守られ、支えられていることをしっかりと受けとめ、地域、保護者、教職員との連携を大切にしながら、さらに今後の教育活動の充実に取り組んでいきたい。

大阪市立三先幼稚園 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p>① 保護者アンケート調査で、「子どもは安全に過ごすための生活習慣を身につけている」の項目について、肯定的な回答率を70%以上にする。</p> <p>② 保護者アンケート調査で、「子どもは周りの環境を大切にする心が育ってきている」の項目について、肯定的な回答率を70%以上にする。</p> <p>③ 保護者アンケート調査で、「幼稚園は活動内容や教育方針を保護者に分かりやすく伝えている」の項目について、肯定的な回答率を70%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b></p> <p>自ら命を守ろうとする態度を身につけることができるような安全教育の指導を工夫する。</p> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降園指導を行い、指導の結果を年3回手紙で知らせる。</li> <li>・地域の安全について保護者と情報共有する機会を年10回以上もつ。</li> </ul>	A
<p><b>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</b></p> <p>物を大切にする心を育てるための保育の内容を工夫する。</p> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員で共通のねらいを決め、その話し合いを月2回以上行う。</li> <li>・保護者への取組内容の啓発を年2回以上行う。</li> </ul>	A
<p><b>取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</b></p> <p>地域や保護者に園の活動内容や教育方針を分かりやすく伝えるとともに、教育内容の啓発に取り組む。</p> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回ホームページの更新を行う。</li> <li>・学年ごとに年2日ずつ保育参加を実施する。</li> <li>・保護者に向けて写真掲示などの方法を通して、学期に2回以上活動内容を掲示する。</li> </ul>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p><b>【年度目標について】</b></p> <p>○ 保護者アンケート調査で、「子どもは安全に過ごすための生活習慣を身につけている」の項目について、肯定的な回答率は、年度末の結果で96%であり、70%以上となった。</p> <p>○ 保護者アンケート調査で、「子どもは周りの環境を大切にする心が育ってきている」の項目について、肯定的な回答率は、年度末の結果で97%であり、70%以上となった。</p> <p>○ 保護者アンケート調査で、「幼稚園は活動内容や教育方針を保護者に分かりやすく伝えている」の項目について、肯定的な回答率は、年度末の結果で100%であり、70%以上となった。</p> <p><b>【取組内容について】</b></p> <p>① 降園指導を6月、12月、3月の計3回行った。各回の指導後に教職員で危険だと思われる点を</p>

話し合い、それを基に手紙を作成し配布した。回を追うごとに改善されている点があり、指導や手紙の効果が見られた。3月の指導の際には、園舎周りから地域全体に指導範囲を広げた。指導の前に3日間安全マップを設置し、保護者に地域で危険だと思われる場所を記入してもらい、指導に生かした。1学期の終業式では、港区協働まちづくり支援課の方に、保護者と子どもに対して防犯指導をしていただいた。2学期始業式、終業式、3学期始業式では、教員の劇による安全指導を行った。劇という形で指導することで、子どもたちも話を聞きやすく、保護者も一緒に見ているため家庭でも安全について考えるきっかけになっているという意見が保護者から聞かれた。避難訓練は園内で実施に加え、地域や保護者と連携し行った。9/5に、880万人訓練に参加し、地域の放送やスマートフォンから流れる緊急地震速報を聞きながら訓練を行った。11/1には引き取り訓練を行った。園内で地震を想定した避難訓練をし、保護者が引き取る場所までを訓練内容に含め、保護者と連携を取りながら行った。11/9に、消防署の方に来ていただき、避難訓練を見てご指導をいただいた。子どもたちは実際の消防車を見ながら説明をしてもらったり、保護者と教師が消火訓練を行うところも見学したりした。訓練を目の前で見たことで、子どもたちは高い関心をもって指導を受けていた。

- ② 月に2回、園全体での課題や物を大切にすることを育てるための保育内容を教職員で話し合った。

4月、5月は、「毎日使う靴箱周りの使い方を見直そう」とし、6月、7月は「トイレの使い方について」という目標をあげ、テラスをほうきで掃いたり、一人一人がスリッパを揃えたりと、きれいに使おうとする姿が見られた。9月、10月は「水を大切にしよう」という目標をもち、蛇口を閉める、無駄遣いをしないなど具体的に話し合っていた。しかし、一人一人の意識はもっていたものの、達成したという実感が子ども自身にも分かりにくく難しいと感じた。そこで、その活動と並行して、「遊んだ後の身の周りの物を丁寧に片づける」という目標を設定し取り組んだ。職員間で、子どもの姿や園全体の様子について意見交換したが、目標が達成されているのかどうかの判断が難しかった。そのため、子どもたちが共有している遊びの場所にポイントをしばってみたいかどうかという意見がでた。そこで1月、2月は「砂場の玩具の片づけ方を見直す」という目標で取り組んだ。子ども1人1人の意識も高まり、年間を通して「物を大切にしようとする心の育ち」が感じられるようになった。

保護者の方と子どもと一緒に取り組むことができるきっかけになるように、年に2回、学期ごとの取り組みや成果を「生活習慣だより」にし発行した。

- ③ ホームページを全体的に見直し、外部の方にとってより見やすく、分かりやすい内容になるように工夫した。また、昨年度と今年度、新たに取り組んだ研究についての項目を増やし、幼稚園の教育の取組の内容を伝えられるようにした。ふれあいランド（未就園児対象園庭開放）の日程の変更や行事内容の変更なども含め、月1回以上はホームページの更新を行った。

6月に年中児、10月に年長児、2月に年少児の保護者を対象に、各学年2日間ずつ保育参加を行った。子どもと一緒に遊んだり、製作の補助をしていただいたりしたことで、子どもにとってもいろいろな人とかかわる機会となった。また、保育参加の際に、その日の活動内容（日案）を、就学前教育カリキュラムの期のねらいや内容と共に掲示することで、より幼稚園の教育活動を理解してもらえるように工夫した。保護者からのアンケートでは、「普段の子どもたちの様子を知ることができて良かった。」「いろいろな子どもたちとかわることができて楽しかった。」など、肯定的な意見が多かった。

1学期は6月と7月、2学期は12月と終業式、3学期は3月と総会で、各学期に2回ずつ教育活動の様子を写真掲示や、フォトフレーム、スライドショーなど様々な方法で伝えた。その際に、就学前教育カリキュラムを活用し、「知・徳・体」に基づいたねらいや教育的意図をもった働きかけ、

子どもの育ちを保護者にも分かりやすい文章で表記し、一緒に掲示したり、掲示期間を、参観や個人懇談、また終業式にかけてしたりするなど、より保護者に見ていただける機会となるよう工夫した。また、三先山（三先小学校）へ行ったり、ジャガイモ掘りをしたりした際には、活動当日の降園時に写真を掲示し、より早く知らせることで保護者の方に教育内容に関心をもってもらえる機会になった。後期は、ICT機器を活用し、登園時や園庭開放を活用して、自由に見ていただけるような方法をとるなど、新しい方法を模索することで、利点や新たな改善点に気付くことができた。

#### 次年度への改善点

- ① 次年度も引き続き降園指導等の保護者や地域と連携した安全指導を行い、啓発を行っていく。啓発方法として、今年度は手紙を学期に1回配布したが、頻度を増やしたり他の啓発方法を検討したりしながらより安全意識を高められるようにしていきたい。
- ② 日々の生活の中から、子どもが物を大切にできるようにする工夫や、園の様子を職員間で話し合うことで課題が見えた。しかし、目標が日々の活動で達成されているのかの判断、基準が難しかった。子どもが取り組みやすい内容、意欲が高まる工夫等、その都度話し合う機会が必要である。しかし、そのような機会を多くもてない時期もあるという課題が残った。次年度は、目標を具体的にしたり、指標を数値化できるようにしたい。
- ③ ホームページは、日程的な変更だけでなく、園生活の様子など内容の部分も見直し、保護者だけでなく外部の方にも分かりやすく伝えられる方法を工夫し、魅力あるものにしていく。  
保育参加は、保護者にとっても園の教育理解に繋がるものであり、また子どもにとっても人のかかわりがもてる機会になっているので、継続して取り組めるようにする。  
園の教育理解や活動内容の周知に関しては、保護者のニーズをしっかりと捉えるとともに、限られた時間の中でできる方法を模索して進める。今後も、1つの方法に固執せず、ICT機器を使ったり、写真や文字での掲示をしたりする等、様々な方法を取り入れながら、必要なことがしっかりと伝わるような工夫を行っていく。

大阪市立三先幼稚園 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p>① 保護者アンケート調査で、「幼稚園は遊びを中心に実体験を大切にした教育活動に取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答率を70%以上にする。</p> <p>② 保護者アンケート調査で、「幼稚園は健康的な生活習慣が身につくような指導に努めている」の項目について、肯定的な回答率を70%以上にする。</p> <p>③ 保護者アンケート調査で、「幼稚園は幼児理解を深めたり教材研究をしたりし、指導力向上に努めている」の項目について、肯定的な回答率を70%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【施策4 全ての基礎となる幼児教育の普及と質の向上】</b></p> <p>特色ある教育内容の充実を図るために、保育内容や環境構成の工夫をする。</p>	A
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容や指導について月に2回以上打ち合わせをする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b></p> <p>健康で安全な生活を送るために、食育を通しての活動を推進する。</p>	A
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回「ほげんだより」、年3回以上「食育だより」を発行する。</li> <li>・学期に1回、栽培物を育て指導に活かす。</li> </ul>	
<p><b>取組内容③【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</b></p> <p>就学前教育カリキュラムを活用した実践に取り組み、教職員の指導力向上につなげる。</p>	A
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研究会を年間5回以上実施する。</li> <li>・実践記録を学期に2回以上とり、分析する。</li> <li>・研究成果発表を年1回実施する。</li> </ul>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>【年度目標について】</b></p> <p>○ 保護者アンケート調査で、「幼稚園は遊びを中心に実体験を大切にした教育活動に取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答率は、年度末の結果で99%であり、70%以上となった。</p> <p>○ 保護者アンケート調査で、「幼稚園は健康的な生活習慣が身につくような指導に努めている」の項目について、肯定的な回答率は、年度末の結果で100%であり、70%以上となった。</p> <p>○ 保護者アンケート調査で、「幼稚園は幼児理解を深めたり教材研究をしたりし、指導力向上に努めている」の項目について、肯定的な回答率は、年度末の結果で98%であり、70%以上となった。</p> <p><b>【取組内容について】</b></p> <p>① 5月4回・6月5回・7月2回・9月2回の打ち合わせで園庭での遊びの内容や環境構成について共通理解をするようにした。同じ場であっても学年によっては遊び方が違うので、それぞれの発達</p>	

に合わせた環境を用意することで子どもたちが目的や目標をもって遊びに取り組み、継続して遊ぶことができた。

3歳児は他の学年の遊びを真似てやってみたいと遊ぶ姿があった。4歳児は遊びが継続してできることが安定した場となり意欲的に取り組んでいた。5歳児は繰り返し行えることが自分なりに遊びを発展させていく要因となり友達と共通のイメージをもって遊びを進める楽しさを味わうことができた。

クラスの活動を一緒に行ったり、誕生会の内容を取り入れた遊びの場を作ったりしたことでもいろいろな場で主体的に遊びを見つけて取り組むことができた。

また、教師が話し合いを重ね、保育を進めてきたことでその時期に経験させたい遊びを展開することができた。

2学期は9月5回・10月4回・11月4回・12月3回の打合せをし、日々の保育につなげた。

体を動かす遊びを中心に共に遊ぶことができる環境を構成し、工夫することで、運動会への活動へとつなげていった。また、室内遊びでは作ることが存分に出来る環境を整えたことで作品展への活動へとつなげていった。

3学期は1月5回・2月4回の打合せを実施した。季節に応じた保育を考え、園庭で体を動かす遊びを十分出来るようにした。また、表現遊びでは意見を交換し合い、年齢やクラスに合った内容で保育を進めたことで、子どもも意欲的に活動に参加することが出来た。

② 子どもたちが健康で、安全に過ごせるように「ほけんだより」を毎月発行した。

5月に夏野菜を親子で植え育てた。自分たちで育てた野菜を収穫し、各家庭でも親子で食育に取り組んでもらえるように、レシピを載せた食育だよりを7月に発行した。その中に、「お手伝いポイント」を載せたことで、「子どもと一緒に調理したことで苦手な野菜を食べることができた」「食事の用意を進んで手伝ってくれた」「そういう姿が見られて嬉しかった」という意見を聞くことができた。

1学期に夏野菜植えを行い、毎日水をあげて自分で育てたこともあり、野菜の生長に喜びを感じたり、苦手な野菜を克服したりする姿がみられた。また、2学期には園で育てたサツマイモを収穫したり、イチゴの苗やキャベツの苗を植えたりしたことで「食」への関心が深まっているように感じられた。栽培物を植える前に、絵本を読んだり、その食物を製作したりする活動をすることで、それぞれの食物に興味をもってもらいやすいように指導を工夫した。

11月の保健指導で、三色栄養について話をした。お弁当のある日に2週間、教材を工夫し、毎日継続して続けたことで、お弁当時三色栄養に関心をもち、友達と一緒に話す姿が見られ、「食」への関心が深まっているように感じられた。

2学期、保護者に食育アンケートを実施した。お弁当を作る時の工夫や、調理法など知ることができ、家庭で食育を頑張っている姿が見られた。そのことで、子どもたちの虫歯が少なく、口腔環境が良いことにつながり、教育委員会・大阪府歯科医会より「大阪市よい歯の幼稚園」ということで表彰された。

港区食育推進ネットワークのみなと食育のつどいに参加したことで、港区にある他の施設が実施している食育活動を知ることができ、保健指導や、食育だよりに活かすことができた。また11月18日に健康フェスタが開催され、三先幼稚園でしている食育活動をポスターにして掲示し、地域の人にも三先幼稚園でどのような食育活動をしているのか知ってもらえる機会となった。

③ 6月、指導要請による園内研究会では、自己肯定感についての共通理解を図るとともに、その時期ならではの遊びを見通し、実態に応じて環境を工夫していくことの大切さを学んだ。また、年少クラスが6月と10月に行った園内研修では、季節にあった遊びを通して、それぞれの発達に応じ



た環境や援助の見直しを行うことができた。

10月には東京都立園長会人権教育視察を受け、子どもたちの主体的な遊びや子ども同士のかかわりを見ていただいた。

11月には大阪教育大学の戸田有一教授をお招きし、研究についての話を通して、今年度の活動を振り返り、見直しにつながった。

12月、幼保交流会では、研究成果発表を行った。今年度すすめてきた研究のまとめとして、自己肯定感を高めるための指導や環境のあり方について教職員の学びを発信することができた。

1月、年中クラスが園内研修会を行った。生活発表会に向けての活動の中で、子どもたちの実態や育ちを共通理解したり、共有したりし、今後の方向性について話し合うことで、教員の資質向上につながった。

実践記録を各学期、2回以上とり、分析を行った。就学前教育カリキュラムを活用し、子どもの姿や教育的意図をもった働きかけを、「知・徳・体」の側面から分析することができた。

#### 次年度への改善点

- ① 年齢や発達に合わせた保育の展開、子どもが意欲的に活動や遊びに参加する環境や保育内容の充実を図る。明確なねらいをもち、教職員の連携のとれた保育に取り組む。
- ② 今後も発達に応じた指導を工夫する。また、「ほけんだより」「食育だより」の内容を工夫する。  
今年度は、栽培物が鳥や猫などの被害に遭い最後まで生長する過程が見られないことがあった。子どもたちが最後まで栽培物の生長をみられるように環境を整える。
- ③ 引き続き、各クラスが保育を積極的に行い、計画的に園内研究会を行う。  
また、就学前教育カリキュラムを活用したり、実践記録を分析したりしながら、次年度も子どもの実態に応じて、保育を計画したり、振り返ったりしながら、教職員の資質向上を図っていく。その中で、新教育要領について学び、活用していけるようにする。